

大雪山国立公園東大雪地域登山関係者による 情報交換会議事録

日時：平成26年6月17日(火)13:30から
会場：北海道十勝総合振興局地下会議室
参加団体：15団体・20名(別紙名簿を参照)

1. 開会：上士幌自然保護官事務所 田邊自然保護官
2. 挨拶

北海道地方環境事務所

環境省は自然公園法に基づいて国立公園を管理しているが、実際に多くの行政・民間関係の方が管理に関わっていただいて管理が実現している。そのため、国立公園行政を進めていく上で、皆さんの意見を聞いていきたいと考えている。大雪山国立公園は登山道が300km以上もあり、それが大雪山の特徴となっている。今回は管理水準や技術指針についても説明するので、忌憚のないご意見を頂きたい。

上士幌自然保護官事務所

当日資料の確認、情報交換会の議事内容を後日環境省や大雪山国立公園連絡協議会のHPで公開したい旨について確認し、了承を得る。

3. 情報交換

各団体からの活動報告(資料1～10参照)。各機関より自己紹介、及び今年度の登山道整備・活動予定箇所等の報告が行われた。(欠席した自治体・団体の計画については司会(田邊自然保護官)より代読。資料1～7の記載事項に付け加え、以下の通り説明された。

東大雪支署

ウペペサンケ、ニペソツへの林道は両方とも通行可能。ウペペサンケについては糠平からのみアクセスが可能であり、林道の一部崩壊により昨年度から登山道が一部変更されている。ニペソツ山は昨年標高年だったこともあり、林道に100台以上の車が駐車することがあった。利用が集中したことによる事故も発生したため、林道の利用については注意が必要である。ユニ石狩岳、トムラウシ山への林道は積雪もなく通れる状態になっている。ヌプントムラウシは大規模な地滑りが発生し、林道の付け替えと多額の予算が必要となることから未だに復旧の目処は立っていない。十勝岳のレイサクベツ林道は残り200mのところまで積雪が残っている。林道の開通状況については森林管理局のHPを確認して頂きたい。

十勝総合振興局

資料に沿って説明。

新得町役場

資料に沿って説明。ヌプントムラウシ温泉についてはファンが多いようで毎日のように問い合わせが来ているが、「復旧時期は未定」と案内している。また今年のトムラウシの荷揚げについては7月10日に開催するため、可能な方に是非参加していただきたい。

北海道山岳ガイド協会東大雪地区連絡調整室

ガイド協会がメインで実施する予定はない。ただし、協会員が個別に仕事を受ける場合は多々あるかと思う。また、協会員が沢山いるので、ボランティアとして協力できることは是非やっていきたいので、相談してほしい。

然別ネイチャーセンター

然別自然休養林保護管理協議会で5月と6月に計五回の登山道整備を実施した。これまで秋に実施していたが、今年度から春刈りに変更し、然別周辺のすべての登山道を対象に実施した。

ひがし大雪自然ガイドセンター

資料に沿って説明。昨年はウペペサンケ山の登山道が一部変更されたため、新しい登山口を作り、合流地点までの登山道整備を実施した。

北海道山岳整備

ニペソツ山、トムラウシ山のぬかるみ箇所の整備補助を予定している。昨年ニペソツ山で近自然工法による登山道技術講習に講師として呼ばれたが、また機会があればやらせていただきたい。

山のトイレを考える会

登山道整備の手伝いはあまり出来ていないが、登山者へのマナー啓発、登山道の清掃を行っている。今回も山のトイレマップ配布をさせていただいたので活用してほしい。内容に変更がある場合は事務局まで連絡して頂きたい。また、マナー袋（使用したトイレ紙を入れる袋）の無料配布を行っているので必要な場合は声掛けしてほしい。9月7日は山のトイレデーであり、ネットで参加を呼びかけて、トイレマップの配布、清掃等をそれぞれの山域でやっていただく予定。あと、東大雪ではないが、美瑛富士の避難小屋周辺はトイレがない状態が続いている。せめてトイレブースを知床のよう

な形で設置したいと考えているが、中々うまく進展していないので、関係各所と協力して取り組んでいきたい。

上士幌自然保護官事務所

欠席している組織の活動報告。

(上士幌町に関しては、ひがし大雪ガイドセンターの説明通りであるため省略。また鹿追町、ポレアルフォレストに関しては、然別湖ネイチャーセンターの説明通りであるため省略。士幌町、しほろ自然環境に親しむ会については、6月25日に士幌側登山道でササ刈りを実施することを説明。)

北海道地方環境事務所の業務について資料に基づいて説明。

資料8, 9の北海道大学のアンケートについて説明。この結果は、現在検討を進めている登山道管理水準の根拠材料としても活用していく予定。

続いて、資料5の近自然工法のレポートについて、北海道山岳整備に説明をお願いした。

北海道山岳整備

長くなるかと思うが、レポートについてざっと説明したい。近自然工法を知っている人向けに作っているため、そもそも近自然工法とは何かといったことまでは書いていない。近自然工法は道内数カ所で施工されており、環境省の直轄業務や講習会のなかで実施している。それぞれの業務に良いところと悪いところがある。以下、資料5に基づいて説明し、質疑応答の時間とした。

山のトイレを考える会

(北海道山岳整備の説明に対して) 環境省直轄事業の施工パターンが少ないことの問題点を挙げておられたが、北海道山岳整備さんから設計パターンを提供するような形は取れないだろうか。

北海道山岳整備

色々問題があり実現していないようだ。既存の設計図に基づいて施工者に現場での柔軟な対応を頼んだとしても、検査等に向けて図面と数値を合わせる必要が生じるとともに、施工者の経験値が低いため、どうしても基本設計に準じた施工を行ってしまいがちだ。私から見ると悪循環に陥っているように見える。

4. 意見交換

北海道山岳整備

トムラウシ山のカムイ天井の泥濘箇所への補修については、過去二年の施工箇所を見るかぎり、まだぬかるみがひどく施工が済んだとは言いがたい。今後どのように進めていく計画か。

上士幌自然保護官事務所

環境省としても中途半端なことはしたくないため、何が必要なかということが明確になれば、予算確保に着手していきたい。

新得山岳会

トムラウシの泥濘箇所への補修は今年が3年目で、2年目までの施工箇所の続きから実施することになるが、1年目、2年目の追加の補修も3年目の業務に含めることが出来れば理想。それが難しければ、当初4年と考えていた計画にもう一年追加して、総合的な補修を行うことも検討してはどうか。

北海道山岳整備

他の維持補修の予算で、現地の倒木等を活用した補修が可能になれば良いと思う。

上士幌自然保護官事務所

必要な施工であれば、業務として実施していくことは可能だと考える。実現に向けて尽力するので今後も相談してほしい。ただし、今年度の業務に作業内容を追加するのは難しい。

北海道山岳整備

承知した。ちなみに、ガイドさんの目から見るとどのように感じるか？

北海道山岳ガイド協会東大雪地区連絡調整室

泥濘箇所への補修については、岡崎氏と同様で全然足りていないと感じる。簡易木道を置いたことによって、水の流れなどが変化した可能性がある。木道の上はまだ良いが、継ぎ目部分や傾斜のある場所では、泥濘化がさらに進行した場所もあり、歩道が拡幅（登山者が泥濘箇所を避けて歩くため）していると思われる。

北海道山岳整備

泥濘化が進行してしまったのであれば、施工を行う者として申し訳ない。正直、トム

ラウシ山の新道は、想像以上に整備が難しい場所だと感じる。荷揚げした木材だけではならず、風倒木も活用できれば良いのだが。あそこまで泥濘化が進むと、泥を踏ませないように工夫しないと踏圧による浸食は直らないと感じる。

北海道山岳ガイド協会東大雪地区連絡調整室

歩道を付け替えるのが一番早いのではないかな。

北海道山岳整備

歩道を付け替えて、既存の歩道を使わなくなったとしても、浸食が止まらないことは多々ある。私は歩きやすくしたいというよりは、浸食を止めて傷んでしまった山を直したい。その結果、人も歩きやすくなれば良いと思う。

北海道山岳ガイド協会東大雪地区連絡調整室

泥濘化している場所は、土砂が流れている状態なので、北海道山岳整備さんが得意とする石が手に入ると良いが、あそこには石材が不足している。

北海道山岳整備

カムイ天井の下部やコマドリ沢の近くであれば、そこから石を運べるのではないかと考えたこともあるが、供給には大変な苦勞を要すると思う。

上士幌自然保護官事務所

トムラウシに関しては多々ご意見もあるかと思うが、新道整備については過去に皆の意見で決定したものであるので容易にルート付替えを判断することは難しく、慎重な議論をする必要がある。今行っている施工の効果検証をした上で、今後の方針をしっかりと検討し、必要ならばもちろん予算を取っていけるよう尽力する。また、付け替えルートの候補があるのかも明確でないため、まずはこれまでの2年間の施工について検証を行いながら、今後のことを話しあっていきたい。

ひがし大雪自然ガイドセンター

ニペソツ山の携帯トイレブースは北海道の予算で建てた物だが、老朽化が激しい。振興局からは、「壊れたら再設置の予算は出ない」と言われている。今後壊れた場合、環境省で予算をつけて貰うことは可能だろうか。

上士幌自然保護官事務所

振興局で今後予算が付かないというのは、全道的な流れだろうか？壊れた場合の撤去

費用の確保は出来るだろうか。

十勝総合振興局

必要性があるのは重々承知しているが、現状では予算をつけるのは非常に難しく、撤去すら厳しい。修繕を行う場合もホームセンターで売っているような資材を購入して職員が直しているような状態。いよいよ撤去となった場合でも、職員実行でひとまず解体して置いておくのが精一杯の状態だと思う。

上士幌自然保護官事務所

撤去も出来ないということになると、環境省として放っておけないと痛感しているが、この場で予算の獲得が可能かは明言できない。

ひがし大雪自然ガイドセンター

設置当時はヘリが一回で運んできたと聞いているので、いざ撤去となった場合は、一回の運搬で済むのだろうと思う。

新得山岳会

トイレブースは当初、秋に解体し春に組み立てるのが条件だと聞いていた。しかし老朽化により、本体を支えているワイヤがよく外れるようになったことから、ブースのワイヤや四隅の補強を行っている。トムラウシ南沼のトイレブースは歪んだ材を何とかワイヤで固定しているため、一度解体してしまうと元には戻せなくなってしまふ。そのため、やむを得ずそのまま梱包して閉鎖することにしている。南沼のように、解体しない前提になると、逆に補強をすることが出来る。ニペソツ山も、建てたままが良いか了承を得た上で補強してはどうか。

北海道山岳ガイド協会東大雪地区連絡調整室

解体するのは雪で潰れないように、という配慮からだと思うが、結局つぶれたことは無かったと記憶している。

ひがし大雪自然ガイドセンター

確かに、一度大雪で撤去できなくなり、そのまま春を迎えたことがあったが潰れることは無かった。南沼ではシートで囲うのだろうか？

新得山岳会

以前ブースの杭が抜けて倒れたことがあったため、全体を補強した。その際屋根も付

けているため、屋根を保護する意味も兼ねて全体を覆っている。このように解体しないという前提であれば色々と対策がある。しかし環境省の設置条件が「使用しない時期に撤去すること」となっていたが、さすがに現地から撤去するのは厳しいため、解体してきれいに残置することで設置が認められたという経緯がある。トムラウシでは現状解体できなくなっているが、ニペソツ山のトイレブースを長持ちさせるのであれば、解体せずに補強することを検討されては如何か。

上士幌自然保護官事務所

設置条件に関しては、東大雪管内のみで決定できることではないが、また南沼のように建てたままにする方が長持ちするのであれば、大雪山全体の方針として検討することも可能だと思う。

山のトイレを考える会

携帯トイレブースについては、知床の銀冷水の物が良いのではないかと。昨年出来た小屋のタイプで様子は当会のHPにも掲載している。

(以下URL <http://www.yamatoilet.jp/mtclean/toiletlist/rausu3.htm>)

上士幌自然保護官事務所

南沼ではトイレの踏み分け道も出来ているようだが、携帯トイレブースの利用率はどの程度だろうか。

新得山岳会

ブース内に数取器を置いているが、昨年で280程度と、それなりに利用はされていると思う。携帯トイレブースの設置当初は携帯トイレを袋ごと捨てられていたことがあり回収した。二年目以降はそういうことは無くなったようだ。しかし踏み分け道が見受けられることから、携帯トイレを持っていない人は外で用を足していると思う。また、一昨年の話だが、誰かが親切で未使用の携帯トイレを置いていったため、使用済みの携帯トイレが中に捨てられていくということがあった。合計10数個もあり悲惨な状況だった。

上士幌自然保護官事務所

ニペソツ山ではどのように利用されているか。

ひがし大雪自然ガイドセンター

ニペソツ山では日帰りが多いので、あまり利用数は多くない。しかし、登山口の回収

ボックスを見ると昨年は50個程回収した。昨年は標高年と言うこともあり、トイレ跡も多いと予想したが、前天狗のトイレ場もあまり落ちておらず、マナーは良いと感じた。

上士幌自然保護官事務所

今後携帯トイレブースの利用を促進していくとしても、まずは携帯トイレの利用率把握や普及啓発に尽力していく必要性を感じる。現状では携帯トイレの販売情報も不足しており、トイレブースの必要性について賛否両論ある気がする。

北海道山岳ガイド協会東大雪地区連絡調整室

携帯トイレの普及について、全国的にはどのような状況なのだろうか。
北アルプスでは、山小屋等のトイレがあるのだろうか。

山のトイレを考える会

立山を始め、北アルプスでは普及しなかった。屋久島では山岳環境型のトイレを作ったがうまくいかず、そこを携帯トイレで補完する方向でやっているが、携帯トイレだけですべてカバーするのは難しいようだ。

北海道山岳ガイド協会東大雪地区連絡調整室

携帯トイレはあまり有効な手段ではないと感じる。

山のトイレを考える会

一部では有効だが、それですべて対応できるものではない。上手くいっている利尻では自治体や環境省が頑張っているようで、毎年工夫を重ねている。大雪山には多様なルートがあるため、一元的に携帯トイレを推進することは出来ないと思う。

上士幌自然保護官事務所

携帯トイレに関しては今後も検討を続けていきたい。その他質問などなければ、管理水準の話に移りたいが、いかがか。以後、資料10に基づき説明。

(資料の説明後) 普段登山道を登られていて、ランク等の区分けについて意見があれば教えてほしい。

北海道山岳ガイド協会東大雪地区連絡調整室

(管理水準の説明に対して) 各ランクの定義が定まっていない状況では、コメントしづらい。

上士幌自然保護官事務所

文字に起こすところまで至らず申し訳ない。これから、文章にすることで分かりやすくなっていくと思うが、感覚として違和感はないだろうか。

新得山岳会

ヌプントムラウシまでの林道は現在通れないが、登山道がなくなったわけではないのでランク付けに含まれていないのは寂しいので、対応してほしい。

上士幌自然保護官事務所

ヌプントムラウシ登山道や菅野温泉側のウペペサンケ登山道は、実際に閉鎖されており、管理者もおらず、今後の開通について見通しが無い。そのようなルートが無理矢理ランク付けしても、将来的に開通した際に状況が変わっている可能性もある。随時変更をすべきランク付けのため、実際に開通した際に評価していただくと考えている。

北海道山岳整備

登山道一路線につき一つの評価を行うのではなく、部分的に適応することは可能か。

上士幌自然保護官事務所

部分的にも反映させていきたい。登山道の泥濘化についての評価が難しく、今後の課題となっている。また、前回(最初)策定した管理水準については施工者側からの認知度もかなり低く、策定後の普及に課題があったと反省している。今回検討している管理水準については、施工者側のみならず登山道の利用者側にも認知してもらえよう、普及啓発に尽力したい。情報交換会など、今後も皆様のご意見を伺う機会を設けていきたい。他に質問はあるか。

北海道山岳ガイド協会東大雪地区連絡調整室

中岳における昨年度の環境省直轄整備について。ガイド協会の間でも、景観に配慮がないとの意見や、環境省事業であるのに、自然公園法に抵触するのではとの意見がある。本年度事業においても、中岳温泉に通じる道であるが、同じような設計をするのか懸念しているが、いかがか。

上士幌自然保護官事務所

表大雪の情報交換会でもこの話題が出た。我々も同じ事を繰り返すことが無いよう注意し、取り組んでおり信頼して頂きたい。またご意見をいただきながら対応していきたいと考えている。

東川自然保護官事務所

(中岳の施工について) 今年の中岳線の工事の際は、自然環境に馴染みやすい石を使用する予定である。

北海道山岳整備

石はどこから持ってくる予定か。

東川自然保護官事務所

上川町内の石溜場に、黒岳で取れた石があるとのことで、そこに見に行く予定でいる。

北海道山岳整備

今年はクチャンベツの林道は空いているのか。前回3年前に登山道整備を行っているが、5年経つとササが元に戻ると聞いているので気になっている。

北海道山岳ガイド協会東大雪地区連絡調整室

中部森林管理署の管轄にあるが、融雪後に検定を行ってから開通の判断を下すが、まず間違いなく空くと聞いている。現状ではまだ空いていない。また沼ノ原の木道工事は再開するのだろうか。

北海道地方環境事務所

木道の設置は再開する予定でいる。クチャンベツの林道については今週見に行くto聞いており、大丈夫であれば6月下旬にも開通する予定と聞いている。

閉会